



住宅街の一角にあるとんがり屋根にピンク色外壁のまだ新しい事務所。2階フロアは、若いスタッフのエネルギーであふれています。率いるのは、ビデオカメラを担いで世界の戦場を駆け巡った経験を持つ異色の弁護士。今、かつて戦前の忠別川流域など道内で行われたといわれる朝鮮人強制労働の歴史を明らかにしよう、と取り組んでいます。そればかりではなく、道北の地からアジアに目を向け、中国、韓国、台湾など各国で急速に広がっているというサラ金被害の実態解明と法的救済に向けて精力的活動も。その根底にあるのは、いわれなき戦争被害と犠牲者の現場を見つけてきた経験からのまなざしなのかも知れません。



「このエリアはすごくきれいです。今回韓国政府の調査団を案内した時、韓国人の人は『いやあ、絵画みたいだ。きれいだ、きれいだ』とずっと言い続けていました。こういう田園風景は韓国の田園風景よりもはるかに少しヨーロッパ的というか、もっと開けていて違った色に見えるよななんです。」

北海道といったら『食べ物がいちしくてきれいで良い』と思っていますから、昔の歴史をきちんとすれば、韓国人の人が今に大量に来ると思いますが。北海道の中で一番美しい自然があるこのエリアに間違いなく来るようになる。その時のために、このエリアを堂々とお勧めできるようにしておきたいんです。」

町発展の礎を作った江卸発電所、農業用遊水池（現遊水公園）は、中国人ばかりでなく、戦前に強制連行されてきた大勢の韓国・朝鮮の人たちによって整備された、という埋もれた歴史を調査しています。

7月下旬、農村環境改善センターで開いた初めての「朝鮮人強制動員

被害についての共同報告会」を主催した「江卸発電所・忠別川遊水池・朝鮮人強制連行の歴史を掘る会」の代表。3月に韓国を訪問し、88歳と87歳のお年寄り2人から聞き取り調査した結果や韓国から訪れた政府公式調査団の報告などを発表しました。

「この地域は素晴らしいし自慢できるからこそ、明らかにしたい歴史、足跡をきちんと知っておこう、ということなんです。ダム、発電所、東神楽森林公園がレジヤースポットになっていることは、すべて忠別川というこの流域の問題です。朝鮮人強制連行の問題は、今までも同じ忠別川流域のひとつの側面としてあつたけれど、あまり取り上げられていなかった。でも、そういうことをきちんとしてこなかったから『日本人は歴史認識が甘い』とアジアの人たちからいまだに言われ続けているんです。」

10月下旬、再度韓国を訪問し、2度目の聞き取り調査をする予定です。「できれば東川、東神楽2町の行政の人と一緒に参加してほしい」と望んでいます。

韓国政府の調査チームが来町して初めて開いた朝鮮人強制動員被害についての共同報告会（7月20日、農村環境改善センター）



韓国人、朝鮮人強制労働の記録調査した幌加内町朱鞠内地区の旧光顕寺（7月22日）



今年3月に韓国訪問した時の独自調査



東川町内遊水池を調査した近藤さんら一行（7月21日）

こんどう のぶお
近藤 伸生さん／弁護士／1区 ☎82-7050

青梅市出身、53歳。北大理学部卒。北海道公害防止研究所（現北海道環境科学センター）を経て、株日本電波ニュース社（東京）所属の報道カメラマンとしてフィリピンでアキノ大統領を取材。ブノンペン支局長当時の1983年、カンボジア、ヘン・サムリン政権下の映像は、すべてカンボジア支局長時代の近藤さんの映像だということです。エジプト支局長時代は、パレスチナ問題を取材するなど、世界の紛争地帯で8年間ビデオカメラを回し続けました。1989（平成元年）、体調をこわして退社。入院療養後、1995（同7）年司法試験合格。1998（同10）年、40歳で弁護士。事務所は「あさひ岳法律事務所」（旭川市永山4条3丁目）。全国各地の弁護士で組織している「全国クレジットサラ金被害対策協議会」=通称クレサラ対協=国際交流部会（2006（同18）年3月）の設立提案者の一人として、アジア各国に進出した日本のサラ金ローン被害をなくそうと、韓国、中国の被害者実態などを調査しています。